



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2018年10月25日

上場会社名 株式会社アクセル 上場取引所 東
 コード番号 6730 URL https://www.axell.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 一教
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理グループ (氏名) 植野 悦匡 TEL 03-5298-1670
 ゼネラルマネージャー
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	2,190	△35.3	△1,411	—	△1,403	—	△988	—
2018年3月期第2四半期	3,387	△15.5	△295	—	△288	—	△123	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	△88.39	—
2018年3月期第2四半期	△11.06	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	10,893	10,347	95.0	924.92
2018年3月期	13,035	11,418	87.6	1,020.67

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 10,347百万円 2018年3月期 11,418百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2019年3月期	—	0.00			
2019年3月期（予想）			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,300	△25.7	△1,450	—	△1,450	—	△1,050	—	△93.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	11,187,749株	2018年3月期	11,187,749株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	152株	2018年3月期	152株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	11,187,597株	2018年3月期2Q	11,187,597株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しております。

当社は、2018年10月26日(金)にアナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会の動画については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(第2四半期累計期間)	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(追加情報)	7
3. その他	8
(1) 生産、受注及び販売の状況	8
(2) 最近における四半期毎の業績の推移	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、引き続き雇用・所得環境に改善がみられるとともに、個人消費も持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調が持続いたしました。しかしながら、通商問題等による海外経済の不確実性の増大に加え、金融資本市場の変動の影響等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社の主力市場であるパチンコ・パチスロ機市場は、レジャーの多様化や近年の依存症対策を目的とした業界団体による自主規制の影響等により、遊技人口は減傾向を示すなど厳しい市場環境が続いております。さらには本年2月に改正された「風適法施行規則等」の影響も重なり、先行きの不透明さから遊技ホールの新台購入意欲は低迷しており、足元の市場環境は一層厳しさが増しております。

かかる環境の中で当社は、引き続きパチンコ・パチスロ機市場に向けた各種製品に加え、組み込み機器市場(注)に向けたグラフィックスLSIの販売活動に注力いたしました。また、新規事業の確立を目指しミドルウェア、暗号技術(セキュリティ、ブロックチェーン)、機械学習の3領域における事業化に向けた活動にも注力いたしました。なお、暗号技術に関連してブロックチェーン事業への参入を決定しており、2018年7月2日付けにて同事業を推進する100%出資子会社「株式会社VIPPOOL」を設立いたしました。

当第2四半期累計期間の売上高は前年同四半期比1,196百万円減(同35.3%減)となる2,190百万円となりました。パチンコ・パチスロ機市場に向けた各種LSI製品は、前年同四半期比1,205百万円減(同36.7%減)となる2,083百万円の売上高となっております。主力製品である同市場向けグラフィックスLSIは、市場環境に加え一時的な市場在庫の調整、当社製品をはじめとする部材のリユース(再利用)増加の影響を受け、前年同四半期比約14万個減の約12万個の販売にとどまりました。同市場に向けたその他製品(LEDドライバLSI、メモリモジュール製品等)は、LEDドライバLSIは前年同四半期を上回ったものの、メモリモジュール製品は採用顧客の需要動向により前年同四半期を下回る販売となり、その他製品全体として前年同四半期を下回る結果となりました。

組み込み機器市場向けグラフィックスLSIは、当社製品採用メーカー各社の需要動向により、前年同四半期比13百万円増(同24.9%増)となる69百万円、顧客の開発支援用ソフトウェアや評価基板、その他ミドルウェア製品等のその他製品は、前年同四半期比5百万円減(同11.7%減)となる38百万円の売上高となりました。

売上総利益は売上高の減収に伴い前年同四半期比617百万円減(同45.7%減)となる734百万円、売上総利益率は主に販売製品の構成比率の変動により、前年同四半期比6.4ポイント低下となる33.5%となっております。販売費及び一般管理費は、全般的な経費削減に努めましたが、次世代主力製品に係る試作開発費の一部を計上したこと等により、前年同四半期比497百万円増(同30.2%増)となる2,146百万円となりました。販売費及び一般管理費のうち研究開発費は、前年同四半期比486百万円増(同40.2%増)となる1,698百万円となっております。なお、次世代主力製品に係る開発費用は、第1四半期において概ね収束しております。

以上により、営業損失は1,411百万円(前年同四半期は営業損失295百万円)、経常損失は1,403百万円(前年同四半期は経常損失288百万円)、四半期純損失は988百万円(前年同四半期は四半期純損失123百万円)となりました。

(注)「組み込み機器市場」とは、パチンコ・パチスロ機以外の組み込み機器の製造に係る市場として使用しております。組み込み機器とはコンピュータが内部に組み込まれており、そのコンピュータに特定のアプリケーションに特化した処理を行わせる電子装置を意味しております。医療機器や自動販売機、生活家電など多岐にわたる機器が組み込み機器に該当いたします。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末との比較で2,141百万円減少となる10,893百万円(前事業年度末比16.4%減)となりました。主な要因は、商品及び製品の増加(741百万円)、投資その他の資産の増加(449百万円)に対し、売掛金の減少(2,695百万円)等によるものであります。

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末との比較で1,070百万円減少となる545百万円(前事業年度末比66.2%減)となりました。主な要因は、買掛金の減少(994百万円)等によるものであります。

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末との比較で1,071百万円減少となる10,347百万円(前事業年度末比9.4%減)となりました。主な要因は、利益剰余金の減少(1,044百万円)等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は6,858百万円（前年同四半期比12.5%減）となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は、以下のとおりとなっております。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における営業活動により増加した資金は126百万円（前年同四半期は805百万円の減少）となりました。これは主に当第2四半期累計期間における税引前四半期純損失（1,413百万円）、たな卸資産の増加（741百万円）、仕入債務の減少（994百万円）に対し、売上債権の減少（2,695百万円）、その他流動資産の減少（719百万円）等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における投資活動により支出した資金は90百万円（前年同四半期は37百万円の支出）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出（10百万円）、関係会社株式の取得による支出（50百万円）等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における財務活動により支出した資金は55百万円（前年同四半期は55百万円の支出）となりました。これは配当金の支払額（55百万円）によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想は、2018年4月25日に開示しました「2018年3月期 決算短信」に記載のとおりであります。なお、当事業年度におきましては、規則改正や研究開発費の計上時期の影響等から、第2四半期以降徐々に回復傾向を示す業績計画としており、当第2四半期累計期間の業績は、概ね当初の計画通りに推移しているものと分析しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,868	6,858
売掛金	3,304	609
商品及び製品	480	1,222
原材料及び貯蔵品	0	0
その他	825	228
流動資産合計	11,479	8,919
固定資産		
有形固定資産	266	234
無形固定資産	32	34
投資その他の資産	1,256	1,705
固定資産合計	1,556	1,974
資産合計	13,035	10,893
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,344	349
未払法人税等	43	4
資産除去債務	—	22
その他	193	131
流動負債合計	1,580	508
固定負債		
資産除去債務	35	37
固定負債合計	35	37
負債合計	1,616	545
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018	1,018
資本剰余金	861	861
利益剰余金	9,398	8,353
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,278	10,233
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	140	114
評価・換算差額等合計	140	114
純資産合計	11,418	10,347
負債純資産合計	13,035	10,893

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	3,387	2,190
売上原価	2,035	1,455
売上総利益	1,352	734
販売費及び一般管理費	1,648	2,146
営業損失(△)	△295	△1,411
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	2
為替差益	4	9
その他	0	2
営業外収益合計	9	15
営業外費用		
投資事業組合運用損	2	7
その他	0	0
営業外費用合計	2	7
経常損失(△)	△288	△1,403
特別利益		
投資有価証券売却益	64	—
特別利益合計	64	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	10
会員権評価損	1	—
特別損失合計	1	10
税引前四半期純損失(△)	△224	△1,413
法人税等	△100	△424
四半期純損失(△)	△123	△988

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△224	△1,413
減価償却費	78	85
受取利息及び受取配当金	△5	△3
投資事業組合運用損益 (△は益)	2	7
投資有価証券売却損益 (△は益)	△64	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	10
売上債権の増減額 (△は増加)	△416	2,695
たな卸資産の増減額 (△は増加)	498	△741
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△630	719
仕入債務の増減額 (△は減少)	△10	△994
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△27	△21
その他	△32	△189
小計	△833	153
利息及び配当金の受取額	5	3
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	22	△30
営業活動によるキャッシュ・フロー	△805	126
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△17	△2
無形固定資産の取得による支出	△4	△10
投資有価証券の取得による支出	△100	—
投資有価証券の売却による収入	80	—
投資事業組合からの分配による収入	6	6
関係会社株式の取得による支出	—	△50
その他	△2	△34
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37	△90
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△55	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	△55	△55
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△903	△9
現金及び現金同等物の期首残高	8,738	6,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,835	6,858

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数及び資産除去債務の見積りの変更)

第2四半期累計期間において、賃借している本社オフィスの一部を解約することを決定いたしました。

これにより利用見込みのない固定資産について耐用年数を短縮し解約までの期間に変更しております。

また、建物賃貸借契約に伴う原状回復費用として計上していた資産除去債務について、より精緻な見積りが可能になったため、見積額の変更を行い、同時に償却に係る合理的な期間を短縮しております。

この見積りの変更により資産除去債務残高が24百万円増加し、従来の方法に比べて当第2四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失はそれぞれ25百万円増加しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

3. その他

(1) 生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第2四半期累計期間の生産実績は次のとおりであります。

区分	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
	百万円	前年同四半期比 %
パチンコ・パチスロ機向けLSI製品	3,572	43.6
組み込み機器向けLSI製品	99	52.5
その他	31	△43.1
合計	3,703	42.0

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②受注実績

当第2四半期累計期間の受注実績は次のとおりであります。

区分	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)			
	受注高 百万円	前年同四半期比 %	受注残高 百万円	前年同四半期比 %
パチンコ・パチスロ機向けLSI製品	1,805	△59.6	1,139	△50.5
組み込み機器向けLSI製品	72	39.2	44	8.4
その他	37	△14.0	5	300.1
合計	1,915	△58.0	1,189	△49.2

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③販売実績

当第2四半期累計期間の販売実績は次のとおりであります。

区分	当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
	百万円	前年同四半期比 %
パチンコ・パチスロ機向けLSI製品	2,083	△36.7
組み込み機器向けLSI製品	69	24.9
その他	38	△11.7
合計	2,190	△35.3

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第2四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
	百万円	%	百万円	%
緑屋電気株式会社	2,451	72.3	1,423	65.0
富士通エレクトロニクス株式会社	264	7.8	387	17.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 最近における四半期毎の業績の推移

2019年3月期

(単位:百万円)

	第1四半期 2018年4月～ 2018年6月	第2四半期 2018年7月～ 2018年9月	第3四半期 2018年10月～ 2018年12月	第4四半期 2019年1月～ 2019年3月
売上高	724	1,466	—	—
売上総利益	257	477	—	—
営業損失(△)	△1,258	△152	—	—
経常損失(△)	△1,247	△156	—	—
税引前四半期純損失(△)	△1,247	△166	—	—
四半期純損失(△)	△871	△117	—	—
1株当たり四半期純損失(△)	△77.88円	△10.50		—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	10,995	10,893	—	—
純資産	10,455	10,347	—	—
1株当たり純資産	934.60円	924.92円	—	—

2018年3月期

(単位:百万円)

	第1四半期 2017年4月～ 2017年6月	第2四半期 2017年7月～ 2017年9月	第3四半期 2017年10月～ 2017年12月	第4四半期 2018年1月～ 2018年3月
売上高	1,434	1,953	1,225	3,864
売上総利益	604	747	527	1,261
営業利益又は営業損失(△)	△316	20	△150	602
経常利益又は経常損失(△)	△311	22	△143	596
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)	△246	21	△281	684
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△136	12	△21	225
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	△12.20	1.14	△1.90	20.15
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	11,608	11,715	11,798	13,035
純資産	11,172	11,221	11,245	11,418
1株当たり純資産	998.62円	1,002.98円	1,005.19円	1,020.67円